

■小泉八雲(ラフカディオ・ハーン) 新聞記者・紀行文作家・随筆家・小説家・日本研究者。東洋と西洋の両方に生きた。

こいずみやくも

国定忠治疎 1850= ギリシアのイオニア諸島レフカダ島で、駐在中の英国陸軍軍医補のアイランド人の次男に生まれる。兄が熱病で夭折後、父が転属となり、キシラ島の旧家の娘だった母と島に残る。  
万次郎帰国 1852= 2歳 母とダブリンの父の実家に移住するが、ギリシア正教を信仰する母が受け入れられず、祖母の妹で金持ちの未亡人ブレナン夫人が住む家にも移る。  
ペリー来航 1853= 3歳 ダブリンに帰還した父と初めて対面。夫の愛に不安をおぼえた母は、一時精神錯乱状態。  
開国開港 1854= 4歳 父がクリミア戦争に従軍。弟ジェイムズ出産で母がキシラ島に帰ったため、子守役が雇われる。  
松下村塾 1856= 6歳 母の不在中に、父が初恋の人と再会して再婚すべく、離婚法が成立するや、  
蕃書調所 1857= 7歳 母と離婚、怒ったブレナン夫人が父を遺産相続人からははずし、以後、父と会わず、母も故郷で再婚。  
五ヶ国条約 1858= 8歳 学齢に達し、初等教育をほどこされる。読書きは得意で、算数は苦手。以後3年、異母妹3人が誕生。  
安政の大獄 1859= 9歳

遣欧使節 1861=11歳 継母が死去し、以後、3人の異母妹もブレナン夫人のもとに。フランスの教会学校に入学して、  
生妻事件 1862=12歳 祖母が死去。フランス語を身につけ、  
8月18日政変 1863=13歳 英国ダーラム市郊外のカトリック系で全寮制のアショー・カレッジに入学、厳格な宗教教育に反発。  
薩長同盟 1866=16歳 父が死去。校庭で回転ブランコ遊びをして、結び目が当たり、左眼失明。  
大政奉還 1867=17歳 親戚の投機失敗でブレナン夫人が破産し、中退。ロンドンのかつての使用人もとでみじめな生活となる。

明治維新 1868=18歳 移民船でアメリカへ渡り、印刷屋ワトキンに拾われて住込み、以後、ワトキンを父のように慕う。  
戊辰戦争終 1869=19歳 公立図書館へ通って本を読み、暇をみては物語を書く。牧師の私的秘書となって、主にフランス語の翻訳に  
初の日刊新聞 1870=20歳 当たりながら、ボストンの週刊誌に投稿するようになる。

廃藩置県 1871=21歳 ブレナン夫人が死去、遺産が届かず、以後、アイランドの親戚と絶縁し、下宿に移る。  
学問のすすめ 1872=22歳 日刊紙の寄稿者となって、主筆に文才を認められ、

明治6年政変 1873=23歳 佐賀の乱 1874=24歳 正社員となる。フランス文学の翻訳に没頭して視力が一層弱くなるなか、ある凄惨な殺人事件の現場へ駆けつけ、詳細に描いて、センセーションを巻き起こし、事件記者として名をあげる。

初の民間工場 1875=25歳 下宿先で雇われていた混血娘と親しくなって結婚するが、州法違反で解雇され、別の日刊紙に寄稿して、  
三つの内乱 1876=26歳 正社員となる。結婚は破綻。アメリカ独立百周年記念博取材で、フリーマン夫人と出会い、以後交際。

西南戦争 1877=27歳 大統領選挙取材のため、ニューオーリンズに向かい、社に送稿するが報酬は送金されず、  
大久保暗殺 1878=28歳 解雇された上、デング熱に罹り餓死寸前まで困窮。友人の斡旋で見かねた市長により、準編集者の職を得、スペイン語を学び始め、インディアンのショクトー族の伝説集著した伝道神父と親交し、集落も訪問。

沖縄県編入 1879=29歳 過労と困窮の日々を過しながら、健筆をふるうち、  
 1880=30歳 文名も上がってきて、クレオール文学の作家ケイブルの知遇を得、  
明治14年政変 1881=31歳 クレオールの下宿に移り、アイランド系女性の食堂の家庭的な温かさを以後敬愛。『合併発刊された{タイムズ・デモクラット}の文芸部長に迎えられ、自由なテーマで執筆できるとともに、経済的に余裕もでき、

新体詩抄 1882=32歳 この年、母が死去するも終生知らず。翻訳を自費出版。『記事に刺激を受けた美貌の才媛で後にアメリカでのハーンの公式伝記の著者となるエリザベス・ピスランドが入社してくる。』

岩倉具視没 1883=33歳 ニューヨークの有力出版社{ハーパー社}の仕事を始め、評論「新しいロマ派作家」を発表。  
秩父事件 1884=34歳 評論「狂気のロマン作家」を書き、「飛花落葉集(異文学遺聞)」を出版。ニューオーリンズで開催された  
内閣発足 1885=35歳 『万国産業綿花百年記念博取材で日本館の展示品に興味を惹かれ、日本政府代表の一人服部一と知合う。』

帝国大学始 1886=36歳 「クレオール料理」ほか出版。フロリダを旅してマリリアに罹る。スペンサー「第一原理」から影響を受ける。  
国民之友始 1887=37歳 フロリダ旅行体験「クレオールの医者」発表。文学への意欲高まり、新聞への寄稿も充実し、生活も安定。

帝国憲法発布 1889=39歳 中国人の医者から中国語を習い、「中国怪談集」出版。作家生活にはいる決心を固め、退社して、ニューヨークに行き、{ハーパー社}と契約して、カリブ海の島マルティニークでの夢のような体験を旅行記「熱帯への真夏の旅」にまとめ、報酬でカメラを購入すると、再びマルティニークへ向かい、2年間送稿続けて、  
ニューヨークに戻る。「チータ」を出版。『再会したピスランドに恋心募らる一方、日本の素晴らしさを教えられて、日本行きを決意。{ハーパーズ・マンズリー}誌の美術主任パットンと会い、日本の美術と文学について語り合った後、日本行きを企画を書き送り、

帝国議会始 1890=40歳 『通信員として、来日。ピスランドやパットンの紹介状で米海軍主計官マクドナルド、博言学教授チェンバレンと、さらにフェノロサ夫妻とも知合い、以後親交する一方、鬱積していた{ハーパー社}への不満が爆発、絶縁状を送る。文部省普通学務局長になっていた服部一三の斡旋で、島根県の英語教師となり、松江に赴任。中学校教頭西田千太郎の訪問を受け、以後、松江での最高の理解者・助力者として、親交。西田の紹介で、出雲大社では、外国人として初の昇殿。{ジャパン・ウィークリー・メール}に「島根だより」掲載。

足尾鉍毒始 1891=41歳 講演や見学訪問などする間、『気管支カタルとなり、看病のために小泉セツが雇われた後、チェンバレンからの知らせを受け、第五高等学校への転任を決意し、セツとその養父母らをとめない、熊本に赴任。セツとともに、山陰から近畿へ約2カ月間の大旅行。秋月梯次郎を「まるで神様のような風貌」と敬愛、  
大本教 1892=42歳 長男一雄が誕生し、セツの入籍や一雄の戸籍問題で責務を痛感、帰化を考え始め、  
郡司千島探検 1893=43歳 『日本観に大きく変化する一方、同僚との確執で退任を考えるようになり、日本に関する最初の著書「知られざる日本の面影」を出版して評判後、神戸クロニクル社に転職。過労のため倒れ、  
日清戦争始 1894=44歳 『回復するも、神戸になじめなくなり、退社。「東の国から」を出版後、帝国大学文科大学長の外山正一から、英文学講師として招聘する意志を伝えられて、帰化を決意、

日清戦争終 1895=45歳 『日本国籍を取得し「小泉八雲」と改名。帝国大学文科大学講師に就任し、一家で上京。「心」を出版。』

白馬会 1896=46歳 次男巖が誕生。西田千太郎が病没。勧められた海水浴になじめず移った焼津の魚屋山口乙吉の実直さと荒海を好み、以後、毎夏のように家族を連れ乙吉宅に逗留。『「仏の畑の落ち穂」。  
八幡製鉄始 1897=47歳 養祖父が死去、フェノロサ夫妻と再会。『「異国風物と回想」、{日本お伽噺シリーズ}のちりめん本「猫を描いた少年」を出版。

子規句歌革新 1898=48歳 三男清が誕生。『アメリカ時代に書いたゴーチエ著「クラリモンド」の翻訳がニューヨークで出版され、横浜グラントホテル社長になっていたマクドナルドの配慮で、印税の一部使いの株主となる。「霊の日本」、シリーズちりめん本「お化け蜘蛛」、  
Bushidou 1899=49歳 養父が死去。マクドナルドとフェノロサ夫妻が離日。外山正一が死去し大学で孤立始まる。『「影」。  
ビアノ国産化 1900=50歳 次男巖を養母の養子にする。焼津へ行った際、土地の者が捨てようとした黒猫をもらい受け、床屋の技量に惚れむなど、地元民との交流が深まる。『「日本雑記」。樹木の多い家に住みたいと、セツの奔走で、  
田中正造直訴 1901=51歳 豊多摩郡西大久保の旧板倉子爵を買取り、セツの差配で増改築後、転居。喉から出血、談話を禁じられ、好きな煙草もやめる。「骨董」、シリーズちりめん本「団子をなくしたお婆さん」、  
教科書疑獄 1902=52歳 長女寿々子が誕生。『解雇され、学生たちの留任運動で、井上哲次郎学長が来訪するが、条件の悪い契約で留任を要請され、拒絶。訪米を意図するも、健康上の理由で断念。シリーズちりめん本「ちんちん小袴」、  
日比谷公園 1903=53歳 『早稲田大学文科の学生たちの招聘運動で、破格の待遇で講師招かれ、ロンドン大学より「日本の文明」に関する連続講演の依頼があり、「怪談」を出版して坪内逍遙に献呈し、大隈重信に西洋物質文明批判の熱弁をふるって感嘆させが、心臓発作が起き、一旦小康得るも、再び発作を起こして没した。没後に、シリーズちりめん本「若返りの泉」が加えられる。』

日露戦争始 1904=54歳